

平成29年度(1月~3月)日程表										S c h e d u l e																					
2018	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1	普通展示(浮世絵) 江戸のグルメ(1/2~2/4)															普通展示(東洋陶磁) 碗の世界(1/2~5/27)															
	普通展示(陶芸) オブジェ —陶造形の潜勢力Ⅲ(〜3/11)															普通展示(陶芸) 華やぎのかたち —染野夫妻コレクション(1/2~5/27)															
	特選鑑賞室 歌川広重 名所江戸百景 日本橋雪晴(1/2~1/31)															茶室 田中信行の茶室 流れる水 ふれる水(〜3/25)															
	明治維新150年・秋陶芸家協会設立25周年記念展 茶陶の現在—2018秋															浮世絵															
	東洋陶磁																														
2	普通展示(浮世絵 江戸のグルメ(〜2/4)															普通展示(浮世絵) 勝川春章とその一門(2/6~3/11)															
	普通展示(東洋陶磁) 碗の世界(〜5/27)															普通展示(陶芸) オブジェ —陶造形の潜勢力Ⅲ(〜3/11)															
	普通展示(陶芸) 華やぎのかたち —染野夫妻コレクション(〜5/27)															特選鑑賞室 歌川広重 名所江戸百景 廓中東雲(2/1~2/28)															
	茶室 田中信行の茶室 流れる水 ふれる水(〜3/25)															陶芸															
	浮世絵																														
3	普通展示(浮世絵) 勝川春章とその一門(〜3/11)															普通展示(浮世絵) 安永・天明期の美人画(3/21~4/22)															
	普通展示(東洋陶磁) 碗の世界(〜5/27)															普通展示(陶芸) オブジェ —陶造形の潜勢力Ⅲ(〜3/11)															
	普通展示(陶芸) 華やぎのかたち —染野夫妻コレクション(〜5/27)															普通展示(陶芸) 陶 —生命の讃歌Ⅱ(3/21~)															
	特選鑑賞室 歌川広重 名所江戸百景 隅田川水神の森真崎(3/1~3/31)															茶室 田中信行の茶室 流れる水 ふれる水(〜3/25)															
	陶芸															展示替えのため休館															
浮世絵 イベント																															

■ギャラリー・トーク (担当学芸員による普通展示作品解説)

- いずれも11:00~ (30分程度)
- 1月13日 [土] 江戸のグルメ
 - 1月27日 [土] 碗の世界
 - 2月10日 [土] 華やぎのかたち —染野夫妻コレクション
 - 2月24日 [土] 勝川春章とその一門
 - 3月10日 [土] オブジェ —陶造形の潜勢力Ⅲ
 - 3月24日 [土] 安永・天明期の美人画
- ※ギャラリー・トークへのご参加は観覧券が必要です。

★イベント

茶室展示クローズング茶会

作家・田中信行さんをお迎えして、作品についてのお話を聞きながら、お茶を楽しむ会です。



- 日 時 ●3月25日(日) 以下のスケジュールで3席行います。
 ①14:30~15:00 ②15:15~15:45 ③16:00~16:30
- 定 員 ●各席5名(受付先着順)
- 場 所 ●和風展示室
- 参加費 ●300円(お抹茶・お菓子)
- ※電話(0838-24-2400)にて事前申込できます。当日受付も可能です。

■交通アクセス

- 【新山口駅から】**
- 直行バス「スーパーはぎ号」(約60分)で萩・明倫センター下車、徒歩約5分
 - 防長バス(約90分)で萩バスセンター下車、徒歩約12分
- 【山口宇部空港から】** [萩・石見空港から]
- 萩近鉄タクシー(乗合タクシー)約70~80分(利用前日までに要予約)
- 【JR山陰本線】**
- JR萩駅から萩循環まゝーるバス(西回り)約30分
 - JR東萩駅から萩循環まゝーるバス(東回り)約30分
 - JR玉江駅から徒歩約20分
- 【自動車】**
- 「中国自動車道」美祿東JCT経由、「小郡萩道路」絵堂ICから約20分
 - 「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い



H A G I

萩

題字は吉田松陰筆跡

WINTER ISSUE 2018

86



井上安治 東京真画名所図解 浅草橋之景

四つ切判 錦絵 明治14年~22年(1881~1889)頃

平成29年度の新収蔵資料について

本年度の資料収集活動(資料の購入・受贈)として、明治の浮世絵師井上安治の版画1件を購入したほか、下表のとおり陶芸62件のほか、漆芸3件、金工1件、インスタレーション1件、肉筆浮世絵2件、デッサン1件、版画などの11件、あわせて81件の資料を受贈しました。

貴重な資料をご寄贈くださいました皆様をはじめ、お世話になりました関係各位に心よりお礼申し上げます。



加守田章二(茶碗) 1976年



十五代樂吉左衛門(黒茶碗) 1993年



岡崎隆一(備前窯) 2003年

◆購入

番号	資料名	制作者名	形態	制作年(西暦)	寸法(cm) / 判型
1	東京真画名所図解 浅草橋之景	井上安治	錦絵	1881-1889年(明治14-22)頃	四つ切判

◆寄贈

◆陶芸

番号	資料名	制作者名	質料	制作年(西暦)	寸法(cm)	寄贈者(敬称略)
1	茶碗 銘 布袋	川喜田半泥子	陶磁	1950年頃	高8.5 口径12.6×12.0 高台径5.9×5.6	松下久子
2	茶碗 銘 子蔵の松	川喜田半泥子	陶磁	1950年	高7.7 口径15.5 高台径5.5×5.0	松下久子
3	志野茶碗	北大路魯山人	陶磁	1959年頃	高7.8 口径11.3 高台径5.8×5.6	松下久子
4	備前ヒダスキ茶碗	北大路魯山人	陶磁	1959年頃	高8.9 口径12.3 高台径5.2×5.0	松下久子
5	志野茶碗	荒川急蔵	陶磁	1970年頃	高9.5 口径13.7 高台径6.2×6.0	松下久子
6	萩茶碗	三輪休和(十代休雪)	陶磁	1975年頃	高10.2 口径12.6 高台径6.3×6.0	松下久子
7	備前茶碗	金重陶陽	陶磁	1964年頃	高8.8 口径12.5 高台径6.0	松下久子
8	備前末香盆	金重陶陽	陶磁	1966年	蓋付総高6.0 口径7.5×5.0	松下久子
9	彩庭紅梅花瓶	楠部彌次	陶磁	1983年頃	高22.5 口径9.9	松下久子
10	彩庭新花生器	楠部彌次	陶磁	1983年頃	高12.6 胴径22.0	松下久子
11	彩庭清涼盆子	楠部彌次	陶磁	1983年頃	蓋付総高5.0 胴径7.0	松下久子
12	赤志野茶碗	加藤唐九郎	陶磁	1962-1979年頃	高8.0 口径12.2 高台径5.8×5.5	松下久子
13	絵唐津茶碗	加藤唐九郎	陶磁	1962-1979年頃	高8.0 口径14.0×13.0 高台径7.0×6.8	松下久子
14	鉄志野茶碗 銘 巖崎	加藤唐九郎	陶磁	1981-1985年頃	高8.8 口径13.6×12.8 高台径6.5	松下久子
15	あけぼの志野茶碗 銘 福壽海	加藤唐九郎	陶磁	1981-1985年頃	高9.3 口径14.3×13.4 高台径6.5	松下久子
16	キセト茶碗	加藤唐九郎	陶磁	1981-1985年頃	高8.3 口径13.7×12.6 高台径6.1	松下久子
17	白萩割高台茶碗	三輪孝雪(十一代休雪)	陶磁	1981年	高10.0 口径14.0×12.0 高台径8.2×8.0	松下久子
18	青織戸花生	岡部銀男	陶磁	1954年頃	高17.0 口径13.0×10.0	松下久子
19	古瀬戸花生	岡部銀男	陶磁	1973年	高23.0 口径14.0	松下久子
20	古瀬戸水指	岡部銀男	陶磁	1973年	蓋付総高17.5 口径18.8×17.5	松下久子
21	絵志野茶碗	岡部銀男	陶磁	1978年頃	高8.0 口径13.7 高台径7.2×7.0	松下久子
22	室菱米色茶碗	岡部銀男	陶磁	1978-1981年頃	高7.4 口径15.5 高台径4.6	松下久子
23	草白釉輪描金銀彩月明木の葉づくし扁壺	藤本能道	陶磁	1984-1990年頃	高42.0 幅41.5 奥行25.5	松下久子
24	草白釉輪描金銀彩翡翠園扁壺	藤本能道	陶磁	1984-1990年頃	高38.0 幅37.6 奥行21.6	松下久子
25	草白釉輪描金銀彩水辺の鳥扁壺	藤本能道	陶磁	1984-1990年頃	高26.0 幅25.0 奥行16.0	松下久子
26	草白釉輪描金銀彩扇柄葉園長四角盆	藤本能道	陶磁	1984-1990年頃	蓋付総高7.0 幅30.0 奥行15.0	松下久子
27	黒釉金銀彩茶碗	藤本能道	陶磁	1991年	高8.0 口径11.7 高台径5.6×5.4	松下久子
28	鉄線掛分茶碗	清水卯一	陶磁	1989年	高9.0 口径13.0 高台径5.6	松下久子
29	信楽茶碗	辻清明	陶磁	1978年	高8.4 口径14.3×9.0 高台径6.2×5.9	松下久子
30	灰釉茶碗	加守田章二	陶磁	1967年頃	高9.3 口径13.0 高台径6.2	松下久子
31	茶碗	加守田章二	陶磁	1974年	高7.6 口径13.0 高台径4.5	松下久子
32	彩色皿	加守田章二	陶磁	1975年	高2.5 口径25.8	松下久子
33	茶碗	加守田章二	陶磁	1975年	高9.3 口径12.3 高台径5.5×5.3	松下久子
34	茶碗	加守田章二	陶磁	1976年	高7.5 口径13.0 高台径5.5	松下久子
35	茶碗	加守田章二	陶磁	1976年	高9.1 口径12.2 高台径6.3×6.1	松下久子
36	茶碗	加守田章二	陶磁	1977年	高7.4 口径12.2 高台径5.7	松下久子
37	鉢	加守田章二	陶磁	1979年	高4.5 口径34.5	松下久子
38	茶碗	加守田章二	陶磁	1980年	高9.7 口径13.2 高台径7.3	松下久子
39	青磁豆彩トルコ文花瓶	三浦小平二	陶磁	1990年	高25.0 口径14.5	松下久子
40	青磁豆彩茶碗 アフガンの水汲み	三浦小平二	陶磁	1996年	高8.5 口径10.5 高台径5.0	松下久子
41	青磁豆彩茶碗 ラジャスタンの水汲み	三浦小平二	陶磁	1999年	高8.5 口径10.5 高台径4.5	松下久子
42	志野茶碗	鈴木藏	陶磁	1979年	高9.0 口径12.7×11.7 高台径6.0×5.6	松下久子
43	志野茶碗	鈴木藏	陶磁	1982年	高9.0 口径13.5×12.4 高台径7.0×6.5	松下久子
44	志野茶碗	鈴木藏	陶磁	1991年	高9.7 口径12.7×11.0 高台径6.0×5.6	松下久子
45	化粧手茶碗	鯉江良二	陶磁	1989年	高9.2 口径14.0×13.2 高台径6.0×5.7	松下久子
46	黒釉銀彩文盤	栗木達介	陶磁	1992年	高8.2 口径12.4 高台径7.1	松下久子
47	黒茶碗	十五代樂吉左衛門	陶磁	1990年	高9.4 口径13.5×12.0 高台径6.6×6.4	松下久子
48	黒茶碗	十五代樂吉左衛門	陶磁	1990年	高9.5 口径15.0×12.0 高台径5.1×5.0	松下久子
49	茶入	十五代樂吉左衛門	陶磁	1990年	蓋付総高10.5 胴径6.8	松下久子
50	黒茶碗	十五代樂吉左衛門	陶磁	1993年	高10.0 口径13.0×10.0 高台径7.9×6.4	松下久子
51	黒茶碗	十五代樂吉左衛門	陶磁	1994年	高10.5 口径13.3×12.0 高台径7.1×5.0	松下久子
52	備前盆	岡崎隆一	陶磁	2003年	高9.0 口径12.2×11.0 高台径3.5×3.0	松下久子
53	黒坑	岡崎隆一	陶磁	2009年	高8.7 口径13.8×10.8 高台径3.2×3.0	松下久子
54	彩庭鉄線文茶碗	青藤勝美	陶磁	1992年	高8.8 口径13.4 高台径5.6	松下久子
55	彩庭難波英文茶盤	青藤勝美	陶磁	2012年	高9.1 口径12.2 高台径4.6	松下久子
56	常滑自然釉皿	大迫みきお	陶磁	1975年頃	高9.2 口径49.8	浦上敏朗
57	煎茶器一式(泡飯形急須1、湯冷まし1、碗6)	吉賀大雅	陶磁	1926-1945年(昭和前期)頃		浦上敏朗
58	白萩雀香合	三輪休和(十代休雪)	陶磁	1964年頃	高4.9 幅6.5×6.4	浦上敏朗
59	白萩掛花入	三輪孝雪(十一代休雪)	陶磁	1961-1966年頃	高13.1	浦上敏朗
60	黒彩器-相一	淡谷英一	陶磁	2016年	高35.0 幅60.0 奥行40.0	現在形の陶芸家大賞展実行委員会
61	徳化練上花生「空」	小野寺玄	陶磁	1997年	高47.0 径30.0	小野寺淳子
62	炭化練上雨天連山園扁壺	小野寺玄	陶磁	1980年頃	高32.0 径38.0×24.0	小野寺淳子

◆その他の工芸

番号	資料名	制作者名	質料	制作年(西暦)	寸法(cm)	寄贈者(敬称略)
1	Cultivation / Between Heaven and Earth	清野耕一	ミクスト・メディア	2016年	幅270×奥行310 (四畳半)	清野耕一
2	桜水文時絵平棗	松田権六	漆	1984年	高6.2 口径8.5	松下久子
3	鶴時絵棗	松田権六	漆	1979年	高7.5 口径7.5	松下久子
4	堆漆拒魔犬香合 乾漆盆付	音丸耕堂	漆	1981年	高5.0 径6.2×6.2	松下久子
5	菊紋銀瓶	不詳	銀	1926-1945年(昭和前期)頃	高30.0 胴径12.5 口径9.1	松下久子

◆浮世絵版画、版画、絵画

番号	資料名	制作者名	形態	制作年(西暦)	寸法(cm) / 判型	寄贈者(敬称略)
1	祭礼図	不詳	紙本着色	1673-1680年(延宝年間)頃	縦111.8×横59.4 (本紙)	浦上敏朗
2	祭礼図	不詳	紙本着色	1603-1668年(江戸時代)頃	縦38.2×横48.6 (本紙)	浦上敏朗
3	新柳二十四時 午前十一時	月岡芳年	錦絵	1877-1886年頃	大判	浦上敏朗
4	新柳二十四時 午後十二時	月岡芳年	錦絵	1877-1886年頃	大判	浦上敏朗
5	三十六佳撰 花見 文政頃婦人	水野年方	錦絵	1893年	大判	浦上敏朗
6	三十六佳撰 樽人形 延宝頃婦人	水野年方	錦絵	1893年	大判	浦上敏朗
7	三十六佳撰 瀧干 文化頃婦人	水野年方	錦絵	1893年	大判	浦上敏朗
8	三十六佳撰 苦津わや 明和頃婦人	水野年方	錦絵	1893年	大判	浦上敏朗
9	茶の湯日々草 広間薄茶の図	水野年方	錦絵	1896年	横大判	浦上敏朗
10	復刻版画「鬼若丸と大経舞、歌川国芳」	立原位貫	木版画	1985年	大判3枚続	浦上敏朗
11	複製「入浴図、喜多川歌麿」	不詳	印刷	不詳	縦60.7×横30.1 (本紙)	浦上敏朗
12	複製版画「市川團十郎、鳥居清信」	不詳	木版画	不詳	大々判	浦上敏朗
13	(無題)	村上肥出夫	デッサン	不詳	①縦33.6×横24.3、②縦24.3×横33.6	浦上敏朗
14	(無題)	オノレ・ド・ミー	挿絵(新聞紙)	不詳	縦24.3×横21.1	浦上敏朗

かつかわしゅんしょう 勝川春章とその一門

普通展示
(浮世絵)

会期 ● 平成30年2月6日[火]～3月11日[日]

勝川派は、明和末から文政期にかけて続いた流派です。一門の祖、勝川春章(1726～1792)は、似顔という写実を基本とする役者の顔貌表現を完成し、役者大首絵の先駆的な作品を発表しました。天明期には、弟子の春好(1743～1812)、寛政期には春英(1762～1819)によって継承されます。今回は、勝川派がリードした役者絵や相撲絵のほか、鳥居清長に追隨した春潮(生没年不詳)の美人画、春亭(1770～1820)の洋風風景画など、勝川派の活躍をご紹介します。

勝川春章「二代目山下金作 五代目市川團十郎」間判錦絵 安永8年(1779)頃



あんえい てんめいき 安永・天明期の美人画

普通展示
(浮世絵)

会期 ● 平成30年3月21日[火]～4月22日[日]

美人画の名手、鈴木春信(1725?～1770)の亡き後、安永・天明期の美人画は、多彩な展開をみました。安永期には、磯田湖龍斎(生没年不詳)は、燈籠鬢という横に張り出した髪型の流行を写し、肉感的で現実的な女性像を描いています。天明期に活躍した鳥居清長(1752～1815)は、長身の女性像が特徴で、大判2枚続、3枚続の大画面に描く群像表現を得意としました。今回はこの二人の絵師を中心に、安永・天明期の美人画の変遷をご紹介します。

磯田湖龍斎「風流四季遊 冬」中判錦絵 安永期



陶芸「陶 - 生命の讃歌II」

普通展示
(陶芸)

会期 ● 平成30年3月21日[水]～

ものをつくるという行為には、有限の生を超えて永続する、無限の存在への祈りが込められています。とすれば、創造のいとみとは、移ろいやすい日常の生の矛盾を深々と受け止めながら、ゆるぎない存在である精神の象徴へと具体化する、果てしない自己探究の過程といえるでしょう。今回は、人間生命の底流をなす、エロス(生)とタナトス(死)という対称的な欲動を自己の内奥に見つめ、それを挑発的なかたちで表出してきた、十二代三輪休雪(本名龍作、1940年生まれ)の〈人間〉シリーズほか初期の作品群をはじめ、土を焼成することで生じる熔融・垂下の現象をかたちにして初源の生命力を暗示させた常滑の作家、杉江淳平(1936～2005)の《記憶・構》など、変転する現実を見つめるなかで作家がかたどった「生命のかたち」をご覧くださいませ。



十二代三輪休雪(人間)シリーズ(予感) 昭和52年(1977) 当館蔵



田中信行の茶室

普通展示
(茶室)

流れる水 ふれる水

Flowing Water and Tactile Water

2017. 4. 8 [SAT] — 2018. 3. 25 [SUN]